

学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合科学部（平成28年度入学生から）

総合科学部社会総合科学科では、専門分野の基礎的・専門的知識やスキルの修得と、広く社会から求められる汎用性の高い総合性の獲得に重きを置くという、二つの支柱からなるカリキュラムを編成している。後者の総合性については、これをテーマとする授業科目をコース横断的な「実践学習科目」に集約し、コース専門科目との連携を深めることで、社会が求める実践的な人材の養成をめざしている。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、自然科学・イノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修させる。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得させるとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。
3. 2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけさせる。また、「総合科学実践プロジェクト」やキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。
4. 2年次には、各自の問題関心に応じて「国際教養」、「心身健康」、「公共政策」、「地域創生」のいずれかのコースに所属させ、「コース入門科目」により各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ばせる。
5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修させる。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。
6. 各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げさせるため、「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により総合性を身につけさせる。
7. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。
8. グローバル化教育の一貫として、「総合科学実践プロジェクトJ」（海外体験プロジェクト）を展開する。

社会総合科学科

国際教養コースでは、以下のようなカリキュラムを編成している。

国際教養コースは、異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする「教養」、広く世界に情報発信ができ、グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むための「コミュニケーション能力」、そして、海外留学・海外研修などの社会体験、さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して「異文化対応力」を育成することを目標としている。

このような教育目標を実現するために、本コースは多様な海外留学プログラム、外国語演習科目、英語による講義科目、日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目、そして国際理解と自文化理解のための授業科目などを段階的に配置している。具体的には、以下のとおりである。

1. 1年次には、教養教育科目と学部共通科目、実践学習科目の授業を履修させ、基本的な調査・発表能力を養いつつ、さまざまな分野についての基礎的な知識と技能を身につけさせる。
2. こうした基礎的な学力にもとづいて、2年次からは、実践力を養っていく。とりわけ、実践的な外国語教育・体験プログラム（ACEプログラムなど）で語学力とコミュニケーション能力を涵養する。教養教育科目、学部共通科目、実践学習科目に加えて、コース入門科目とコース基礎科目、一部のコース応用科目を受講させる。実践学習科目、コース入門科目、コース基礎科目、コース応用科目については、仮選択した5つの「履修パターン」に提示された科目を中心に履修させる。
3. 3・4年次には応用力を身に付けさせていく。コース基礎科目、コース応用科目を中心に履修させ、

かつ、コース自由選択科目や他コース選択科目については、視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように履修させる。さらに短期・長期の留学や国際交流体験を通じて異文化対応能力を培わせつつ、自文化理解と国際理解を深めるために、個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米、その他の地域の言語や文学、文化、思想、歴史、経済、政治、社会について学ばせる。またそれらの地域を相互に比較して学ばせることもできるようにする。そして、ゼミナールを中心に自ら設定した問題を掘り下げさせ、議論を積み上げながら卒業研究にまとめさせる。

心身健康コースでは、人間の心と身体の働きに着目して、人間科学の諸領域から QOL (Quality of Life) の向上を追求できる人材の育成を目的とする。この目的のもと、本コースでは、複雑化していく社会の健康課題を解決するために、自ら考え行動する人材の養成を目指し、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に「教養教育科目」と「学部共通科目」「実践学習科目」を履修させ、幅広い教養教育や地域を基盤とした総合科学の基礎・実践教育により自主・自律の学びの態度を身につけさせる。
2. 2・3年次では、コース基礎科目の心身の健康に関する基礎講義と実践実習のスパイラル方式の学習サイクルによって、心理学とスポーツ健康科学の文理融合した基礎学力を身につけさせる。またコース入門や実践実習を履修させ、支援技法の修得とともに対人コミュニケーション、ファシリテーション、チームマネジメントといった人間関係形成の実践力を育成する。また、コース応用科目では学生の選択を基本としてより専門的な科目を履修させるとともに、地域連携により実施される学外実践実習を履修したり、教育・法律・産業・地域・外国語などの他コース専門科目を自由選択科目として履修したりして、多様な知識と経験の幅を広げ、他職種者とも協調・協働できる人間力や教養力を身につけさせる。
3. 3・4年次では、コース教員のゼミに配属され、担当教員の専門領域の研究法指導のもとで、学生自ら掘り下げた研究課題について計画・実践し、論文にまとめる研究力を養成する。
4. 心身健康学の専門性を活かしたキャリアデザインとして、中学・高校の保健体育教員、認定心理士、健康運動指導士などの資格取得を希望する学生に対しては、コース担当教員の履修指導のもと学生自主ゼミを編成し、専門知識の補習、試験対策などの自学・自習の力を身につけさせる。

公共政策コースでは、教養教育科目・学部共通科目並びに法律学、政治学、経済学、および経営学の4分野の学修を広く横断的に進め、ゼミ（公共政策総合演習）において専門性を深めるという講義・演習の最終目標として卒業研究を完成する以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次では、教養教育科目を中心として学修を進めるとともに、情報処理や自然科学分野の科目の受講を促し、いわゆる文系分野の科目以外の科目の取得を通じて広い教養を身につけることを目標にする。さらに、学部共通科目や課題発見ゼミナールなどの実践学習科目を通じて、大学生として論理的に学習できる習慣を身につけ、社会の広範囲な問題に対して関心を抱くように指導する。
2. 2年次では引き続いて、上記関連科目を学修するとともに、コース入門科目において公共政策コース4分野のすべての教員がオムニバスで講義することで、公共政策コースの全体像を学生が把握できるようにして、ゼミ（公共政策総合演習）選択を容易にするように指導する。
3. 3年次においては、希望したゼミでの深い知識を得るために学修を継続するとともに、ゼミ担当教員以外の分野の学習も同時並行的に進めながら、卒業研究の方向と内容を決定する。
4. 4年次においては、公共政策コースが目指す専門性と総合性の最終目標である卒業研究の完成に向けて指導する。

地域創生コースでは、地域文化や地域社会、情報メディア、芸術表現における専門知識を体系的に修得するために、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、自然科学・イノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修させる。

2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得させるとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。
3. 2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけさせる。また、「総合科学実践プロジェクト」やキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。
4. 2年次では、地域文化、地域社会、情報メディア、芸術表現などの分野に関わる基礎知識・技能を学ばせる。
5. 3年次以降、地域社会、地域文化、情報メディア、芸術表現いずれかの分野を体系的に履修させる。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。
6. 各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げさせるため、「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により総合性を身につけさせる。
7. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

総合科学部（平成27年度入学生まで）

総合科学部では、豊かな人間力を基盤として、広い視野と深い専門性を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、総合科学的なものの見方を身につけさせるとともに、専門的学びに必要な情報処理・外国語運用力など汎用的技能のスキルアップと国際感覚の向上、人間力・コミュニケーション力・論理的思考力、問題発見・解決能力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1年次を中心に「学科共通科目」を受講、将来専門分野に進んだ際に必要な基礎学力を修得させる。
4. 2年次から各自の関心に応じてコースに所属させる。2年次から3, 4年次にかけて「コース専門科目」を体系的に履修させ、専門知識・能力を高めさせていく。講義科目を通して知識を深めさせるとともに、実習・実験・演習などの主体的な学びを通じて、問題発見・解決能力、情報発信能力を向上させる。また「自由選択科目」で、各自の関心に応じて知識の幅を広げさせる。
5. 3年次を中心に「総合科学テーマ科目」を受講させ、諸科学を統合し、現代社会の諸問題を柔軟に分析する手法を理解させる。
6. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

人間文化学科

人間文化学科では、豊かな人間力を基盤として、広い視野と、人間と文化に関する深い専門性を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。

2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、総合科学的なものの見方を身につけさせるとともに、専門的学びに必要な情報処理・外国語運用力など汎用的技能のスキルアップと国際感覚の向上、人間力・コミュニケーション力・論理的思考力、問題発見・解決能力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1年次を中心に「学科共通科目」を受講、将来専門分野に進んだ際に必要な基礎学力を修得させる。
4. 2年次から各自の関心に応じて、「国際文化」「心理・健康」のいずれかのコースに所属させる。2年次から3, 4年次にかけて「コース専門科目」を体系的に履修させ、人間と文化に関する専門知識・能力を高めさせていく。講義科目を通して知識を深めさせるとともに、実習・演習などの主体的な学びを通じて、問題発見・解決能力、情報発信能力を向上させる。また「自由選択科目」で、各自の関心に応じて知識の幅を広げさせる。
5. 3年次を中心に「総合科学テーマ科目」を受講、諸科学を統合し、現代社会の諸問題を柔軟に分析する手法を理解させる。
6. 4年次に「卒業研究」に着手、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

社会創生学科

社会創生学科では、豊かな人間力を基盤として、広い視野と、地域づくり・環境づくりに関する深い専門性を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、総合科学的なものの見方を身につけさせるとともに、専門的学びに必要な情報処理・外国語運用力など汎用的技能のスキルアップと国際感覚の向上、人間力・コミュニケーション力・論理的思考力、問題発見・解決能力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1年次を中心に「学科共通科目」を受講、将来専門分野に進んだ際に必要な基礎学力を修得させる。
4. 2年次から各自の関心に応じて、「公共政策」「地域創生」「環境共生」のいずれかのコースに所属させる。2年次から3, 4年次にかけて「コース専門科目」を体系的に履修させ、地域づくり・環境づくりに関する専門知識・能力を高めさせていく。講義科目を通して知識を深めさせるとともに、実習・実験・演習などの主体的な学びを通じて、問題発見・解決能力、情報発信能力を向上させる。また「自由選択科目」で、各自の関心に応じて知識の幅を広げさせる。
5. 3年次を中心に「総合科学テーマ科目」を受講、諸科学を統合し、現代社会の諸問題を柔軟に分析する手法を理解させる。
6. 4年次に「卒業研究」に着手、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

総合理数学科

総合理数学科では、豊かな人間力を基盤として、広い視野と、自然科学に関する深い専門性を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、総合科学的なものの見方を身につけさ

せるとともに、専門的学びに必要な情報処理・外国語運用力など汎用的技能のスキルアップと国際感覚の向上、人間力・コミュニケーション力・論理的思考力、問題発見・解決能力の向上をめざす。

さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。

3. 1年次を中心に「学科共通科目」を受講、将来専門分野に進んだ際に必要な基礎学力を修得させる。
4. 2年次から各自の関心に応じて、「数理科学」「物質総合」のいずれかのコースに所属させる。2年次から3、4年次にかけて「コース専門科目」を体系的に履修させ、数理科学（数学、情報科）・物質科学（物理学、化学、地球科学）に関する専門知識・能力を高めさせていく。講義科目を通して知識を深めさせるとともに、実験・演習などの主体的な学びを通じて、問題発見・解決能力、情報発信能力を向上させる。また「自由選択科目」で、各自の関心に応じて知識の幅を広げさせる。
5. 3年次を中心に「総合科学テーマ科目」を受講、諸科学を統合し、現代社会の諸問題を柔軟に分析する手法を理解させる。
6. 4年次に「卒業研究」に着手、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

医学部

高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持ち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、人間・文化・社会・自然に係る広範で多様な基礎的知識と幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育では、基礎から臨床までの幅広い専門知識と技能を修得させるとともに、問題解決能力、コミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナリズムなどを含めた汎用的能力や態度・志向性を高めるための教育を行う。
3. 卒業研究や研究室配属によって、研究への関心を持ち、研究倫理に基づいて研究を遂行できる能力を修得させる。
4. 臨地・臨床現場での教育によって学習意欲を向上させながら、医療人として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。
5. 職種間連携教育を通してチーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。

医学科

医学科では、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、語学、自然科学や社会科学の幅広い教養及び持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門医学教育では、医師、医学研究者を目指す上で必要な生命科学、医学英語、基礎医学、社会医学及び臨床医学の基盤知識の教育を行う。臓器疾患別教育ではPBL チュートリアル教育による自己決定型学習方法を用いて、自己開発・自己評価の習慣と科学的根拠に基づいた問題解決能力の修得をはかる。
3. 医学研究への関心を持たせ、研究倫理に基づいた研究能力を養うために、基礎医学・臨床医学分野及び学内各研究センターでの自主的な医学研究実習を行わせる。また、希望する学生には外国での研究経験を積ませる機会を提供する。さらに希望する学生はMD-PhD コースに進学することもできる。
4. 低学年での早期臨床体験から高学年でのクリニカルクラークシップにいたるまで、各学年の学修段階に応じた診療現場での教育を行うことで、学習意欲を向上させながら、医学知識、思考能力、診療

技能，コミュニケーション能力，倫理観，医療プロフェッショナルリズムなどを含めた，医師として必要な基本的な知識，技能，態度の育成をはかる。また，学外医療機関での実習により，地域社会と医療との関わりについても学習させる。

5. 医療系の他学科，他学部学生との職種間連携教育を通して，他職種に対する理解を深め，チーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。

医科栄養学科

医科栄養学科では栄養学を基盤として食は生命の基盤であることを社会に情報発信するとともに，現場における栄養管理学を発展させ臨床栄養管理を指導できる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育を通じて，広範で多様な基礎的知識と文化や自然科学等の幅広い教養を修得させるとともに，持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 基礎専門科目において，生化学，生理学，基礎医学，臨床医学などを基盤に，人間栄養の基礎知識を修得させる。
3. 専門科目において，管理栄養士養成コアカリキュラムの教育内容を網羅し，医学教育を基盤とした臨床栄養学をより充実させることで，高度な専門的基礎知識を備え，医師や他の医療専門職と協働して，リーダーシップを発揮できる管理栄養士を育成する。
4. 実習や演習を問題解決型授業ととらえ，実践能力を開発するとともに社会から求められる知識や知恵を修得させる。
5. 卒業研究において，実践的な技術や能力を修得させるとともに，研究の意義や楽しさを理解させ問題を解決する手法を修得させることで，指導者となる管理栄養士及び教育者・研究者をめざす人材を育成する。

保健学科

保健学科では，幅広い教養と豊かな人間力を基盤として，保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて，人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性，高い倫理観を修得させるとともに，持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し，社会性及び人間関係の形成を理解させ，医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力，国際的な広い視野を修得させる。
3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて，専門知識と技術を系統的，段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目，汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習，統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し，保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ，「臨地・臨床実習」を通じて，実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ，「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。

保健学科看護学専攻

看護学専攻では，幅広い教養と豊かな人間力を基盤として，ヒューマンケアを核とした看護学の専門性と実践力を兼ね備え，将来において看護学のプロフェッショナルとなる人材を養成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて，人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性，高い倫理観を修得させるとともに，超少子高齢化に対応した持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し，社会性及び人間関係の形成を

理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。

3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。看護学に関する知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、看護学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて看護学の専門性を深化させ、「卒業研究」により看護学の発展に寄与する自主的・創造的な学究の姿勢と生涯にわたってキャリアを形成する力、専門分野における主体性・指導性を修得させる。

保健学科放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻

放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。
3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。

歯学部

歯学部では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備え、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養するための科目を配置する。
3. 臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるための科目を配置する。
4. チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。
5. 希望者では選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。
6. 学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床実習を配置する。

歯学科

歯学科では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざして、臨床実践に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせるための科目を配置する。
2. 2・3年次の歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養するための科目を配置する。
3. 3・4年次の臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるための科目を配置する。
4. 4・5年次においては、チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。
5. 5・6年次においては、これまでに学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を配置する。

口腔保健学科

口腔保健学科では、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1・2年次の教養教育や専門教育科目での様々な体験学習を通じて人間力や社会性を身につけさせることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 問題解決型授業や客観的臨床能力試験などを組み込んだ授業を通じて口腔保健に関する知識や技能を習得させ、臨床・臨地実習により、態度教育を含めた歯科衛生士専門教育の習熟を図る。
3. 選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。また、問題解決型授業や演習などを組み込んだ授業を通じて福祉に関する知識や技能を習得させ、社会福祉実習に繋がる福祉教育を行う。
4. 「卒業研究」で専門性と総合性を統合させる。

薬学部（平成29年度入学生まで）

薬学部では、指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握できるように、教養教育において、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観及びコミュニケーション能力を養わせる。また、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育（3年次前期まで）では、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基盤とし、薬学基礎科目を十分に修得させた後、自らの適性や能力を踏まえ、専門性（学科）の選択と薬学における目標を確立させる。
3. 専門教育（3年次後期以降）では、講義、演習および卒業研究を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させるとともに、課題発展能力、問題解決能力、高度化する医療や創薬の進歩に対応できる能力を身につけさせる。
4. 6年制学科（薬学科）では、4年次の実務実習事前学習を経て共用試験に合格した学生に、5年次

において医療薬学・病院実習及び薬局実習を履修させる。4年制学科（創製薬科学科）では、学部と大学院の一貫教育・研究を行う。これらを通じて、指導的役割を担う薬剤師としての高い能力や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者を養成する。

薬学科

薬学科では、臨床の場で指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握できるように、教養教育において、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観及びコミュニケーション能力を養わせる。また、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育（3年次前期まで）では、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基盤とし、薬学基礎科目を十分に修得させた後、自らの適性や能力を踏まえ、専門性（学科）の選択と薬学における目標を確立させる。
3. 専門教育（3年次後期以降）では、臨床の場での指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師養成を目的とし、医療系薬学分野の講義・演習を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能を修得させる。
4. 医療人としての職業倫理や責任感を身につけさせるために、4年次に実務実習事前学習や共用試験を受験させ、その試験に合格後、5年次に医療薬学・病院実習及び薬局実習を実施するとともに、卒業研究を通じ、課題発展能力、問題解決能力、研究マインドと医療ニーズに対応できる能力を修得させる。さらに、研究成果の発表を通じて、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を向上させる。

創製薬科学科

創製薬科学科では、創薬・製薬に関する高い研究能力や専門的薬学知識を身につけた研究者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握できるように、教養教育において、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観及びコミュニケーション能力を養わせる。また、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育（3年次前期まで）では、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基盤とし、薬学基礎科目を十分に修得させた後、自らの適性や能力を踏まえ、専門性（学科）の選択と薬学における目標を確立させる。
3. 専門教育（3年次後期以降）では、創薬・製薬に関する高い研究能力や専門的薬学知識を身につけた研究者の育成を目的として、創薬科学分野の講義・演習に基づき、サイエンスに関する基盤を十分に修得させた後、卒業研究を通じて、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させる。
4. 学部と大学院の一貫教育・研究を通じて、多様・高度化する医療や創薬の進歩に対応できる研究者・教育者としての課題発展能力・問題解決能力を修得させる。

薬学部（平成30年度入学生から）

薬学部では、指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブ YAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携

を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材)の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握でき、物事を俯瞰的に捉え、進取の気風のもとに自立して未知の課題を解決できる人材を養成する。これらを通じて、持続可能な社会づくりの担い手たる資質も身につけさせる。

2. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。
- 3 専門教育では、講義、実習、演習および卒業研究を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させるとともに、課題発展能力、問題解決能力、高度化する医療や創薬の進歩に対応できる能力を身につけさせる。
4. 6年制学科(薬学科)では、4年次の実務実習事前学習を経て薬学共用試験に合格した学生に、5年次において医療薬学・病院実習および薬局実習を履修させる。4年制学科(創製薬科学科)では、学部と大学院の一貫教育・研究を行う。これらを通じて、指導的役割を担う薬剤師としての高い能力や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成する。

薬学科

薬学科では、臨床の場で指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師、薬学研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。
2. 専門教育では、臨床の場での指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師養成を目的とし、モデルコアカリキュラムに基づいた講義、実習、演習のほか、特色ある授業科目を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能を修得させる。
3. 医療人としての職業倫理や責任感を身につけさせるために、4年次に実務実習事前学習や薬学共用試験を受験させ、その試験を合格した学生に対して、5年次に病院実習および薬局実習を実施するとともに、卒業研究を通じ、課題発展能力、問題解決能力、研究マインドと医療ニーズに対応できる能力を修得させる。さらに、研究成果の発表を通じて、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を向上させる。

創製薬科学科

創製薬科学科では、創薬・製薬に関する高い研究能力とともに専門的薬学知識を身につけた創薬研究者、薬学研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、幅広い基礎科学の知識や柔軟な科学的思考を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。
2. 専門教育では、創薬・製薬に関する高い研究能力や専門的薬学知識を身につけた研究者の育成を目的とし、創薬科学分野の講義、実習、演習を通じて、サイエンスに関する基盤を十分に修得させた後、卒業研究を通じ、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させる。
3. 学部と大学院の一貫教育・研究を通じて、多様・高度化する医療や創薬の進歩に対応できる研究者・教育者としての課題発展能力・問題解決能力を修得させる。

工学部(平成27年度入学生まで)

工学部では、豊かな教養を基盤として、工学基礎と専門に関する知識を応用して社会に貢献できる、計画力・企画力、課題解決能力・実行力、倫理観を身につけた技術者を育成するために、以下の様なカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における導入教育の柱として「教養教育科目」を受講させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。

また、さまざまな体験を通じて社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成する。

2. 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の養成をめざす。さらに「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 専門基礎科目の学修を通じて、基本的な理論とともに演習問題を解ける知識を修得させる。
4. 専門応用科目の学修を通じて、課題解決へ応用できる知識を修得させる。
5. 実験・実習科目や創成科目を通じて、計画力・企画力や課題解決能力・実行力の基礎を養成する。
6. 専門的課題について問題解決能力を有する技術者の育成を目指し、1つの研究テーマについて1年間卒業研究を行う。

建設工学科

建設工学科では、工学基礎とともに社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する知識を有し、問題解決能力、計画・企画力および実行力を身につけ、社会に対する強い責任感や倫理観と高度な説明能力を具備する建設技術者を育成するために、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 建設工学の専門基礎科目（構造力学、土質力学、水理学、計画学、材料学、環境学、測量学）について、基本的理論と基本的な演習課題を解ける知識を修得させる。
4. 建設工学の専門応用科目（構造解析、地盤力学、基礎工法、鉄筋コンクリート工学、建築構造の分野、または、水工学、水環境工学、生態学、都市・交通計画、景観工学の分野）について、基礎理論及び応用課題の演習を通じて実務に応用可能な知識を修得させる。
5. 建造物設計・維持管理の分野もしくは環境・都市・地域の保全管理の分野について、実験や実習を通じて実務問題の理解と課題演習が解ける知識と応用力を修得させるとともに、建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる実務についての知識を修得させる。
6. 社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計・施工・維持や、人間社会が環境に及ぼす影響の評価とその緩和に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに、課題演習・調査・実験を遂行し、対象とする現象への理解を深めさせるとともに、問題解決能力ならびに創造性を高めさせる。さらに、卒業論文の作成と発表会を通じて、論理的表現能力と情報発信能力を高めさせる。

機械工学科

機械工学科では、豊かな教養や社会に対する倫理感・責任感、自学自習の精神を基盤として、工学基礎や機械工学の知識を応用して、もの作り産業の根幹を担う機械技術者を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 材料と材料力学、機構学と機械力学、エネルギーと流れ等の機械工学主要分野科目では、講義に演

習を付随させ、知識の理解を深めさせるとともに、それを応用できる能力を育成する。

4. 機械製図の基礎知識に基づいて機械要素や加工法を講義科目で修得させ、設計製図の実習につなげて、機械システムの設計・開発に応用できる能力を育成する。
5. 卒業研究以外に7科目の創成科目を1年前期から段階的に設定し、情報収集・活用能力、創造能力、課題解決能力、グループ活動能力、プレゼンテーション能力を育成する。
6. 卒業研究は創成科目の集大成である総合創成科目と捉え、上記5の創成科目に挙げられている能力を伸ばし、知恵と技術を使った自己の創成を実践させる。

化学応用工学科

化学応用工学科では“化学はよりよい明日の生活を創造し、人間の健康と地球環境生態系保全との調和をはかる科学（専門分野）である”と考え、将来学生が化学の役割と化学者・化学技術者であることに誇りを持ち、育つことをめざしている。このような考えの基に、物質の分子・反応設計から製造プロセスにわたる広範囲の教育・研究を行い、人間と自然が共存する新しい豊かな社会に向かって行動・貢献する人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「全学共通教育科目」の基礎科目群(6科目(12単位)の講義科目と、1科目(2単位)の実験科目)、工学基礎科目(11科目18単位から履修)、工業物理学実験(1単位)の単位修得により、工学基礎に関する論理的な解析力・思考力・探究力の育成をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 必修科目として、19科目(34単位)の講義科目と、3科目(6単位)の実験科目があり、これらの履修によって、専門教育科目のうち、基礎知識と応用力を有する技術者の育成をめざす。
4. 選択科目として、18科目(33単位)の講義科目と、4科目(4単位)の演習科目があり、これらの科目からの選択履修によって、物質合成化学、物質機能化学、化学プロセス工学の専門3分野の基礎知識に基づいた応用力を有する技術者の育成をめざす。
5. 化学応用工学基礎、および雑誌講読は、学科全教員が、少人数の学生に対して指導する科目であり、これらの履修によって、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の育成をめざす。
6. 専門的課題について問題解決力を有する技術者の育成を目指し、与えられた研究テーマについて1年間を通して研究を行い、口頭発表を最終試験として実施する。口頭発表によるプレゼンテーション能力や、質疑応答により研究内容についての理解度について評価する。

生物工学科

生物工学科では、社会がかかえるヘルスケア、環境、エネルギー、食糧生産分野の問題を生物工学によって解決しようとする意欲ある人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 生命科学の基礎学力、バイオテクノロジーの自然や社会への影響を理解する能力、生命工学も含める工学一般に関する技術者倫理を、「基礎生物工学」、「有機化学1・2」、「物理化学1・2」、「生化学1～3」、「微生物学1・2」、「技術者・科学者の倫理」などにより修得させる。
4. 最新のバイオテクノロジーを理解し応用できる能力や国際コミュニケーション力を、「生物物理化

学1・2」, 「生物有機化学」, 「遺伝子工学」, 「タンパク質工学」, 「酵素工学」, 「細胞工学」, 「専門外国語」などにより修得させる。

5. 生物工学の研究・開発に必要な技術的能力を「生物工学創成実験」, 「生物工学実験1～7」, 「生物工学演習1～7」などにより修得させるとともに, 医工及び農工連携といった学際的視点を養わせるために「医用工学」, 「植物遺伝育種工学」等の習得も図る。
6. 4年次にはこれまで学んだ最先端の専門的知識・技術を活用し, 専門性と創造性の視点を生かしながら課題解決力や研究開発力を培う実践を行い, それを研究成果として結実させる。

電気電子工学科

電気電子工学科では豊かな教養を持ち, 高い倫理観と強い責任感を有するとともに, 国際社会で通用する課題探究型の電気電子系技術者を養成することをめざし, 以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講, 大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で, 幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また, さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに, 情報処理や外国語運用の基礎力を養成し, 持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により, 自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ, 事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに, 「キャリア教育科目」を受講させ, 卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 導入教育として『電気電子工学入門実験』等を開講して電気電子工学に関する視野を広げさせ, この後の学習への動機付けを行う。「電気回路」「電気磁気学」に関する必修科目を演習付き科目として設定して電気電子工学の基盤を理解させ, 電気電子工学に関する基礎知識を十分に有する技術者を養成する。
4. 電気電子工学に関する幅広い視野とその応用力を有する技術者を養成するため, 「物性デバイス」・「電気エネルギー」・「電気電子システム」「知能電子回路」に関する専門応用科目を選択必修科目として設置する。これら学習の中で, 各種国家資格認定に必要な科目を希望により無理なく学習できるように設定する。
5. 創成型科目として「実験・演習」科目を設置し, プロジェクト型研究遂行能力を有する技術者を育成する。
6. 必修科目として『卒業研究』を実施し, 個別指導により, 総合的な学習経験と創造的思考力, デザイン能力及びプロジェクト型研究遂行能力を有する技術者を育成する。

知能情報工学科

情報工学と知能工学における技術者として求められている標準的水準の能力を維持するとともに, その社会的責任と倫理観を幅広い視野から絶えず意識しながら自律的に行動する能力を持ち, 国内外の社会に貢献できる人材を養成することをめざし, 以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講, 大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で, 幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また, さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに, 情報処理や外国語運用の基礎力を養成し, 持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により, 自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ, 事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに, 「キャリア教育科目」を受講させ, 卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1, 2年次を中心に知能情報工学を学ぶにあたり必要となる情報数学, ネットワーク, 計算機ハードウェアやソフトウェア, 知能システムに関する基礎知識を身につけさせる。特に新入生導入科目に力を入れ「知能情報システム工学セミナー」及び「コンピュータ入門」を実習として開講する。
4. 主に2年次以降, 社会ニーズを理解した上で新しい課題を発見し, 自発的に課題を探求できる能力, チーム内での自分の役割を理解し, 協調的に課題を解決できる能力, 解決手法の新規性, 有効性, 信

頼性を理解し、成果を的確に評価できる能力を身につけさせる。特に学生が自分自身の能力や興味に応じて履修計画をたてることができるよう、ほとんどの専門教育科目を選択科目とする。

5. 主に2年次以降、創造性の早期育成を目指したチームによる本格的なプロジェクト達成型の創成型科目「ソフトウェア設計及び実験」、「システム設計及び実験」により、単に創造性のみならず、チームによるプロジェクト達成にとって不可欠となるコミュニケーションならびに自己学習などの能力を身につけさせる。
6. 4年次に、1年間を通して研究を行い、口頭発表を最終試験として実施することで、これまで学んだ最先端の専門的知識・技術を活用し、専門性と創造性の視点を生かしながら課題解決力や研究開発力を身につけさせる。

光応用工学科

人間・自然を愛し、環境エネルギーに配慮して国際的に通用する素養・視野を持ち、健康に生活でき、目的意識が高く、活力ある自律的光技術者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 1, 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、自発的な学習意欲をもって工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1, 2年次を中心に、光応用工学を学んでいく上で、その土台となる、電気回路、電子物性工学、電気磁気学、デバイス、レーザ、波動、熱力学、熱統計学、分子工学、化学などの光機能材料と、数学、電子回路、光演算処理、光情報機器、コンピュータ、信号処理、通信などの光情報システムに関する知識を身につけさせる。
4. 主に2年次以降、各自の関心に応じ、高分子や光化学を中心とした光機能性材料を創製する能力及びそれらの材料をデバイスに組み上げ、その特性を評価する能力を身につけさせる。また光コンピューティング、光通信、光導波工学、画像処理といったシステム分野において、それぞれの用途に適合した光システムが構築できる能力を身につけさせる。
5. 「光応用工学セミナー」で、「ものづくり」の感覚を身につけさせ、技術者・研究者として不可欠な創造力を養わせる。「光応用工学実験」で、技術者・研究者として最も大切な実験に対する基本的な姿勢を身につけさせる。「光応用工学計算機実習」で計算機を研究に有効に活用できる能力を身につけさせる。
6. 4年次では卒業研究を必修とする。専門的知識・技術を活用した創造的思考力、デザイン能力及び課題解決・研究開発力を有する技術者を育成する。

理工学部（平成28年度入学生から）

理工学部では、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力

と表現力を養う教育を行う。

4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

理工学科

社会基盤デザインコースでは、数学・物理・地球科学の理学と建設・建築・都市・環境・防災に関する幅広い理論と技術に関する知識を有し、問題解決能力、計画・企画力および実行力を身につけ、社会に対する強い責任感や倫理観と高度な説明能力を具備する建設技術者を育成するために、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1, 2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「学科共通科目」や他コース科目の履修により、自発的な学習意欲をもって理工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の向上をめざす。
3. 建設工学の専門基礎科目（構造力学、土質力学、水理学、計画学、材料学、環境学、測量学）について、基本的理論と基本的な演習課題を解ける知識を修得させる。
4. 建設工学の専門応用科目（構造工学、地盤工学、鉄筋コンクリート工学、建築学、水工学、環境工学、生態学、都市地域計画学）について、基礎理論及び応用課題の演習を通じて実務に応用可能な知識を修得させる。
5. 建造物設計・維持管理の分野もしくは環境・都市・地域の保安全管理の分野について、実験や実習を通じて実務問題の理解と課題演習が解ける知識と応用力を修得させるとともに、建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる実務についての知識を修得させる。
6. 社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計・施工・維持や、人間社会が環境に及ぼす影響の評価とその緩和に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに、課題演習・調査・実験を遂行し、対象とする現象への理解を深めさせるとともに、問題解決能力ならびに創造性を高めさせる。さらに、卒業論文の作成と発表会を通じて、論理的表現能力と情報発信能力を高めさせる。

機械科学コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、機械分野を中心としたイノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、力学を中心とした専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

応用化学システムコースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を

十分に理解させる教育を行う。

3. 化学者あるいは化学技術者として自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる化学者あるいは化学技術者を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

電気電子システムコースでは、豊かな教養を持ち、高い倫理観と強い責任感を有するとともに、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ主体的に学習にする態度を養う教育を行う。
2. 課題や事象を論理的・科学的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、電気電子工学に関する基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら課題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、電気電子工学に関する幅広い視野とその応用力、問題解決力及び表現力を養う教育を行う。
4. 電気電子工学に関連した知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力、創造的思考力、デザイン能力及びプロジェクト型研究遂行能力を養う教育を行う。

情報光システムコースでは、情報工学、知能工学及び光工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理学的素養の上に情報工学・知能工学・光工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、情報工学・知能工学・光工学の専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、情報工学・知能工学・光工学の諸問題に、科学技術を広く俯瞰して柔軟に対応できる自律的応用力と創造力、さらにチーム内での自分の役割を理解し協調的に課題を解決できる能力を養う教育を行う。

応用理数コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 数学、情報科学、物理科学、化学、地球科学、生物科学の諸問題を自ら解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

生物資源産業学部（平成28年度入学生から）

生物資源産業学部では、教育目標を達成するため、以下の特色あるカリキュラムを編成している。

1. 1次製品の生産から加工，製品開発・販売，機能食品・医薬品の開発に関する先端技術を理解し，生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため，アグリサイエンス，フードサイエンス，ヘルスサイエンスに関する専門教育と産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を行う。
2. 生物資源の生産，加工・応用，製品化を総合的に理解するために必要な基礎教育を重視し，1・2年次に行われる学科共通科目（講義9科目 18単位）と実習・演習科目（3科目 4単位）を必修化する。また，推薦入学による農業系高校出身学生の基礎教育では，高大接続科目や自然科学入門を1年次に履修させることにより，基礎学力の修得を徹底する。
3. 生物資源を活用した産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を重視し，経済・経営関連科目として「経済学基礎」，「経営学入門」，「地域資源経済学」，「フードシステム論」，「知的財産の基礎と活用」，「アグリビジネス起業論」，「食品マーケティング論」（7科目 14単位），実習演習（「起業体験実習」，「商品開発プロジェクト演習」）（2単位）の必修科目と選択科目である「国際農業論」，「ブランド戦略論」（2科目 4単位）を開講するとともに，生物資源の利用，産業化に関する科目（「生物資源産業学概論」，「生物資源産業学実習」，「食品・生物資源関連法規」，「生物資源産業学特別講義」）を必修化し，生物資源による新たな産業の創出に必要な基礎知識を涵養する。
4. 持続可能な生物資源の生産と応用には，生物生産現場の体験が重要であるとの認識から，生物生産現場の特性が体感できる実習（「生物生産フィールド実習」）を1年次に必修科目として実施する。
5. 農学，工学，医学，栄養学及び薬学分野が融合し，かつ安全性や環境にも配慮した先端技術による生物資源の生産，応用に関する教育を重視する。
6. 生物資源の生産管理や分析には，情報処理の知識が不可欠であるため，教養教育科目である基礎数学（「統計学」，「微分積分学」）と学科共通科目である「生物情報処理学」，「コンピュータプログラミング演習」を必修科目とし，情報処理能力を修得する教育を実施する。
7. 「キャリアパス」，「起業体験実習」，「商品開発プロジェクト演習」，「生物資源産業学特別講義」，「技術者倫理」や「インターンシップ」，学外での卒業研究によって，現場での実践力を養う教育を実施する。
8. グローバル化を見据え，専門英語については，「生物資源産業学基礎英語」と「生物資源産業学専門英語」を必修化し，英語運用能力と国際感覚を高めるための実践的教育を実施する。
9. 生物資源の持続的活用と安全な食品生産，創業のため，「技術者倫理」（3年後期）を必修化するとともに，コース専門科目においても技術者倫理・生命倫理に関する内容を講義に組み込む。

生物資源産業学科

応用生命コースでは，生物資源の医薬からエネルギーに至るバイオテクノロジーの開発応用に関する高い研究能力や専門知識を身につけ，新たな産業創出に貢献する技術者，起業家を育成することをめざし，以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で，新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため，教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性，バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また，持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため，ヘルスサイエンスに加えて，フードサイエンス，アグリサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」，「食と健康概論」，「生物生産科学概論」等）および，経済・経営関連科目（「地域資源経済学」，「フードシステム論」，「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。
3. 「タンパク質工学」，「細胞バイオ工学」，「創薬学」，「バイオマス利用学」，「医用工学」な

どのコース専門教育や、「バイオマス実習」、「細胞工学実習」、「発酵学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって、生物資源を利用したバイオ医薬品、エネルギー、有用資源の開発応用、産業化に関する専門知識と技能を修得させる。

食料科学コースでは、安心安全な食品供給を可能にするための生物資源の加工、食品中の機能成分の役割、有害物質の作用等に関する高い研究能力や専門知識を身につけ、食品分野で新たな産業創出に貢献する技術者、起業家を育成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で、新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため、教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また、持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、フードサイエンスに加えて、ヘルスサイエンス、アグリサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」、「食と健康概論」、「生物生産科学概論」等）および、経済・経営関連科目（「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。
3. 「食品衛生学」、「食品加工保蔵学」、「食品微生物学」、「遺伝子資源利用学」、「発酵醸造学」などのコース専門教育や、「食料科学実習Ⅰ、Ⅱ」、「微生物学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって、食資源としての生物資源の重要性を理解し、栄養学の基礎、機能食品開発、産業化に関する専門知識と技能を修得させる。

生物生産システムコースでは、豊かな自然環境を保全しながら、一次製品の質の向上や生産量を増加させる革新的なアグリサイエンスに関する高い研究能力や専門知識を身につけ、一次産業の発展、産業創出に貢献する技術者、起業家、地域リーダーを育成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で、新たな生物資源の活用によって人類社会に貢献するため、教養教育科目や学科共通科目（「生物資源産業学概論」等）などの科目を通じて生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また、持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、アグリサイエンスに加えて、フードサイエンス、ヘルスサイエンスに関する専門科目（「生物化学工学概論」、「食と健康概論」、「生物生産科学概論」等）および、経済・経営関連科目（「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「アグリビジネス起業論」等）などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。
3. 「栽培育種工学」、「森林代謝学」、「植物環境応答生理学」、「家畜繁殖学」、「植物細胞工学」などのコース専門教育や、「生物生産システム実習Ⅰ、Ⅱ」、「細胞工学実習」などのコース専門実習および卒業研究によって、一次産業の技術革新、新たな生物資源の利用、産業化に関する専門知識と技能を修得させる。